

いざ、その時に緊急対応

公助を支える応援協定



例年実施されている総合防災訓練の様子

東日本大震災から2年が経過します。市では、各地区の防災・安心地域委員会とともに、地域のコミュニティを柱とした防災力の強化に努めています。また、さまざまな団体や企業と応援協定を締結し、災害の発生時に求められる緊急対応力の強化に取り組んでいます。

年々高まる防災意識
市では、地域の防災力を高めるために、防災・安心地域委員会とともに自主防災組織の強化、地域防災リーダーの育成、「自助」と「共助」の意識啓発などに力を注いでいます。昨年は、第1回東京防災隣組に「増

戸地区防災・安心地域委員会」が認定されるなど、地域防災力の強化と地域コミュニティ活性化を目指した自主防災組織の取組も高く評価されています。また、市民の皆さんの積極的な防災への取組・参加も年々活発化しており、昨年度と今年度の総合防災訓

練では、それぞれ7千人以上の方が、地域の防災訓練に参加しました。これからも、突然の災害に備え、家庭の防災対策や個人の防災知識・技能の習得に取り組みましょう。

さまざまな応援協定で防災力を強化

市では、備蓄物資・災害対応資機材の充実や避難所の生活環境の確保などのため、さまざまな団体や企業と災害時応援協定を締結しています。これまでに、友好姉妹都市との相互応援協定のほか、要援護者の二次避難所としての施設開設や仮設トイレ等の供給協力などの応援協定を締結し、災害時に求められる緊急対応力の強化を図っています。今後も、さらに幅広い協力関係を築いて、地域防災力を高めていきます(2面に応援協定一覧を掲載)。

自助・共助・公助の連携が大切

市民一人一人が「自分の身を守る」ことを日ごろから考え、実践することが、災害に強いまちづくりの基礎になります。この「自助」に、地域のコミュニティを中心とした「共助」の取組と、行政や支援組織による「公助」を加えた三つの歯車がかかりと噛み合つことが、災害発生時の被害を最小限に抑えることにつながります。この機会に、もう一度、自らの防災対策や地域の助け合いについて考えて、災害への備えを怠らないようにしましょう。

問合せ 地域防災課 防災安全係

ペットの防災対策も忘れずに

災害時は、まず自分の安全を確保し、できるだけペットと一緒に避難しましょう。そのために日ごろから次のことを心掛けましょう。防災用品 フード、水、常備薬、食器、トイレ用品、首輪、リード、ケージ、キャリーバッグ、おもちゃなどを常備し、持ち出しやすい場所に保管しましょう。

身元表示 突然の災害でペットが驚いて逃げたとしても、身元が分かるように、犬には鑑札・狂犬病予防注射済票と迷子札を、猫にも迷子札を着けておきましょう。

しつけ 避難場所で大勢の人や他のペットに興味が無いよう、飼い主がコントロールできるようにしましょう。

犬の場合...「待て」「伏せ」などの基本的な号令に従う。ケージに嫌がらずに入る。トイレは決められた場所です。無駄吠えをしない。他人や他の動物を怖がらない。など

猫の場合...ケージやキャリーバッグに嫌がらずに入る。トイレは決められた場所です。他人や他の動物を怖がらない。など

問合せ 健康課母子・予防係



3月の市民相談 (予約制)

市役所
不動産取引相談...1日
法律相談...12日・26日
交通事故相談...13日
登記相談...15日
税務相談...18日
相続・遺言など暮らしの手続相談...25日
行政相談...27日
五日市出張所
法律相談...7日
人権身の上相談...22日
時間 午後1時30分～4時30分
予約 法律相談は、相談日の7日前の午前8時30分から電話で受け付けます。その他の相談は、随時受け付けます。
予約・問合せ 市民課市民相談窓口係 (直通558-1216)

世帯と人口

平成25年2月1日現在
世帯 33,704世帯
人口 81,930人
(前月比 22人減)
男 40,982人
女 40,948人

環境都市あきる野



森っこサンちゃん

郷土の恵みの森づくりを進めよう